

ダム等管理フォローアップ
意見を受けての報告書修正対応表

【真名川ダム】

平成 26 年 3 月

【真名川ダム】

1.事業概要

特になし

2.治水

特になし

3.利水

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
貯水池運用実績 概要版 P26	貯水位の変化において、平成 19 年と平成 21 年は 2 月頃の水位が高く、その後の水位が低くなっている。融雪が早い等の要因で水位が下がり切らなかったと思うが、これが発電実績と関連し、両年は発電量が少なくなっている。 冬場の流況の違いにより貯水池運用が異なっており、温暖化にあたって融雪を期待するダム運用を検討するための先行事例であると考え。今後のフォローアップで特徴的な年の貯水池運用をレビューしたら良い。 (角委員)	温暖化による流出形態の変化に関するデータは本編に整理している。 九頭竜ダムでの指摘を踏まえて、集計期間は 11 月～翌 5 月とし、表記は年に統一した。 (例えば、H20.11～H21.5 は、H20 と表記) 【委員会意見により修正】	降雪量や気温、ダム流入量や貯水位のデータを蓄積し、特徴的な気象年があれば貯水池運用等を平均年等と比較する。
発電関連 本編 P3-9	発電に関する資料においてページにより単位が異なり分かりにくい。 (松井委員)	発電量は真名川発電所以外の実績が入手できないため、他の発電所は計画値(最大・常時)で示さざるを得ず、単位を統一できない。 発電に関する単位の説明を注釈で示した。 【委員会意見により追記】	—
	「真名川発電所の発電量は約 15,500 世帯に相当」とあるが、流域全体のどの程度カバーできるのか。 (松井委員)	真名川発電所の発電量がわかりやすいように、福井県と大野市の世帯数との比較を追加した。 【委員会意見により修正】	—

4.堆砂

特になし

5.水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
貯水池水質の経年変化大腸菌群数概要版 P43	糞便性大腸菌群数のデータは抜けている年があるが、継続して調査を実施していないのか。(椎葉委員長)	糞便性大腸菌群数は標準的な調査項目に位置付けられておらず、これまで継続したデータがなかった。	流入河川、貯水池内での調査を継続して実施する。
水質のまとめ本編 P5-170	淡水赤潮は富栄養化現象の一つなので、「アオコ等の富栄養化現象は発生していない」という表現は不適切である。(前畑委員)	「アオコ等は発生していない」(富栄養化現象等を削除)に修正した。 【委員会意見により修正】	—

6.生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
魚類・連続性の観点からみた確認状況本編 P6-164	アマゴは日本海の河川にもともと生息しておらず移入種である。「陸封化」の本来の意味は違うので、「ダム湖の上流で繁殖している」等の表現の方が良い。(前畑委員)	移入種に関する注釈を追加した。 「陸封化」の表現は削除し、以下のように文章を修正。 「ダム湖または流入河川において繁殖している」 【委員会意見により修正】	—
弾力的管理試験の目的本編 P6-206	弾力的管理試験の4つの目的のうち、どれが達成できたのか。(江崎委員)	生物のまとめ(本編 P206,概要版 P90)に以下の記述を追加。 「また、下流河川で行っている弾力的管理試験では、河床堆積物の掃流や付着藻類の更新による環境改善の可能性を確認した。」 【委員会意見により修正】	—
生物のまとめ本編 P6-206	弾力的管理試験で得られたことがまとめに記述されていない。まとめの3点目は下流河川のことを記述しているので、ここに弾力的管理に関する記述を追加したらよい。(角委員)	上記と同様	—

7.水源地域動態

特になし

以上